

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500238		
法人名	社会福祉法人 つつじ会		
事業所名	グループホームまえさわ苑折居館		
所在地	岩手県奥州市前沢区古城字北館21番1		
自己評価作成日	平成27年12月25日	評価結果市町村受理日	平成28年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/1/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihontrue&gvosyoCd=0391500238-00&PrOfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から3年半が経過し、利用者9名中6名が開所時からの利用となっております。利用者同士、職員との関係も一緒に過ごす時間が長くなるにつれ、増々良好なものとなっております。家族のような感覚で毎日を過ごしています。食事は毎食一緒に同じ物を摂り、家事的な作業などにも参加していただいています。共に食べる楽しさ、共に働く達成感、喜怒哀楽を一緒に感じられるよう心掛けております。利用者の希望に沿えるような支援、利用者の気持ちに配慮した支援ができるよう、職員間で日々話し合い、より良いケアを目指しています。医療面では、特養が併設されている為、看護師との相談、アドバイスを受ける等の連携を図りながら、利用者の健康面に対応し、安心して過ごしていただけるよう取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・法人(つつじ会)の理念を基に、グループホームの運営に当たっている。また、グループホームのキャッチコピーを「ゆっくり・一緒に・楽しく」とし、職員は、利用者と一緒に日々生活をしている。
 ・管理者と職員は、年間を通しての目標を定め、さらに、4か月ごとの目標と対策を定めている。4か月後に反省・評価し、次の目標と対策を決めている。職員会議での評価は丁寧に行われ、利用者への、質の高いサービスの提供に努力してことが窺われる。(4ヶ月にしているのは、季節の課題も関わってくるから)
 ・開所から3年が過ぎ、利用者との関係が緊密となってきている。利用者は思いや意向の表出ができ、職員は利用者への理解が深まっており、利用者にとって安心して生活できる家となっている。また、職員も利用者も、来訪者に笑顔で対応し、温かさを感じさせる。
 ・法人も、事務局の職員が業務分担し、管理者の事務的な業務をサポートしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念には、地域との交流を図るという内容も含まれており、積極的に関わりを持つよう努めています。施設理念は毎月のグループホーム会議で唱和し、評価を行っています。その他にグループホーム独自の目標を毎年4ヶ月毎に設定し、対策を立て評価を行っています。	法人の施設理念を、共有ホールの壁に掲示している。グループホームのキャッチコピーを「ゆっくり・一緒に・楽しく」としている。4ヶ月(季節ごと)の目標を立て、評価している。評価は、各職員が反省点を書いて提出し、それに基づいて話し合い、次の4ヶ月の目標を決めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加する等し交流を深められるようにしています。参加回数が増え、顔なじみになったり、施設に対するご理解をいただけるようになってきたと感じております。また、居宅支援事業による介護予防教室参加者の方々と交流する機会もあります。	市から委託を受けて実施している居宅支援事業の介護予防教室に、ホームの利用者も参加し、受講者と交流している。地元の敬老会に参加したいと本人の希望で、職員と家族が付き添い、3名参加できている。地域の夏祭り等の行事にも参加し、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生や、他職種の方に職場体験に来ていただき、グループホームの生活の様子、認知症の方への接し方などを理解していただけるよう取り組んでいます。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、ホームでの生活、行事内容等について報告しております。また、検討事項等についても会議参加者の方々から意見をいただき、運営に反映していけるよう取り組んでおります。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催しており、利用者や家族、地域住民の代表(ホームへの協力者等)が委員となっている。委員からは会議で意見いただく他に、植物の栽培で困った際(ベランダで、プランターでのゴーヤ栽培)、助言・手伝いをしていただいた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人としては、連携を取りながら施設運営を行っておりますが、グループホーム独自での連携はあまりない状況です。	市とは、法人を通じて連絡している。ホームでは、運営推進会議委員である包括支援センターの職員から情報を得たり、相談をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在対象となる利用者はいません。また、施錠も行っておらず、目に見える拘束は行っていません。言葉による拘束、非言語的な拘束についても行わないよう、常に心掛けています。	身体拘束については、法人の全体会議での研修のテーマになっている。玄関は施錠していない。ホームは2階にあり、1名で外出したい方が、エレベーターで降りて靴を履き、外に出て行き戻るまで、職員が付き添っている。1名の方が、家族の了解を得て、離床センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体としても、グループホーム内でも会議の中で話題に取り上げ、防止に努めております。利用者に対する言葉遣いについても、十分注意するよう呼びかけております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解に関して学ぶ機会は設けていません。今後、ホーム内の勉強会の内容に取り入れ、知識を深めていきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は契約に関する説明等は行っており、家族からの理解、納得を得ております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、サービス担当者会議、家族会等で意見、要望を話していただけるようにしております。	利用者の家族は、法人全体の家族会に参加している。家族から、ホームの感染症対策で、冬場の面会の規則が厳しいと意見が出され、リビングでなく、居室での面会にした。また、認知症が進行しないようにということや、いつまでも歩けるように等の要望に、本人の状態を説明し、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、各委員会等の話し合いの場で、意見や提案を求め、その内容を運営や日常介護の中に、迅速に反映できるよう取り組んでおります。	職員会議(月1回)、各委員会(感染症・身体拘束・広報等)等で意見を聞いている。意見の、年末年始の夜勤・遅番の手当の支給について、法人に要望し、実施している。また、資格取得についても配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、支援状況等を把握するようしております。また介護等の場で、労働意欲を高められるような話し合い、言葉掛けを行うようにはしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での研修は、できるだけ多く参加できるように働きか掛けていますが、施設外での研修は、職員体制の確保が十分ではない為、なかなか参加できない状況となっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等を通じて交流することにより、情報交換を行っております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の事前面接で、本人または家族にアセスメントを実施し、全職員が情報を共有し、統一した対応ができるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所の初めの段階で、家族にアセスメントを実施し要望等を聞くようにはしています。出来るだけ早い段階で信頼関係を築けるように努力しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの段階で、家族の話をよく聞き、サービス内容の優先性を見極めるようにし、全職員で対応するよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事的な作業、行事の準備等、利用者それぞれに出来る事を一緒に行ってもらいにより、共に暮らしているという意識を深められるよう働き掛けています。中には、役割意識を持ち日課として作業をする方もいます。利用者から教えてもらうという、受け身の姿勢で一緒に作業する事も心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出、外泊、通院対応等を行ってもらったり、行事に参加してもらいにより、家族と本人とのつながりを支援しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、知人の方々が気軽に会いに来ていただけるような声掛け、雰囲気作りをしております。傾聴ボランティアの方々ともしだいに馴染みの関係になりつつあります。	家族の面会は、週1回の方や、2週に1回の方が多いと感じている。お盆には、ドライブの途中で、自宅に寄った際、畑にいた知人と話し、枝豆を頂いて来ている。月1~2回傾聴ボランティアが来訪し、会話が盛り上がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、お互いが良好にコミュニケーションをとったり、トラブルを防げるよう、職員が様子を見ながら間に入る等の支援を行っております。また、食事の席についても様子をみて検討をし、より良い関係作りを図れるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養と併設している為、グループホームから移動となった場合は、継続して交流が出来るようにしています。本人との交流は持てますが、家族との接点はほとんどなくなってしまうとう状況です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から行きたい所、やりたい事等の要望が以前より多く出るようになっていきます。業務や職員体制を調整し、希望に沿えるよう対応しております。自らの訴えが少ない方、難しい方については、本人の思いを見出せるよう、普段の関わりを多く持ち傾聴に努めています。	「祭りに出かけたい」、「小物を買に行きたい」、「手芸の用具を買いたい」「連れて行ってくれるか？」等の要望が出るようになり、体制を整え、希望に添っている。今年、初詣に行きたいと要望があり、職員と1対1で出掛ける体制を整え、3日掛けて3名が実現できた。お守りを買って帰り、喜んでいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメント、面会時等での家族からの情報、本院との会話の中から得た情報により、ホームでの生活や対応に繋がられるようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が個々の状態を把握できるよう、生活記録、申し送りノートの活用をしたり、職員が出勤する都度一対一での口頭での申し送りをを行い、細かく状態を把握できるよう努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング、サービス担当者会議を行う他、毎月の会議の中でも一人一人についてのカンファレンスを行い、それぞれの意見を介護計画に反映させるよう取り組んでおります。	基本情報の把握、施設サービス計画書の作成、モニタリング等、チームで丁寧に行われている。担当者が評価表を記載し、ケアマネジャーと検討し、サービス担当者会議に提出し、会議では、家族・看護師・担当者・ケアマネジャーが参加し、意見・要望を話し合い、ケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は具体的に分かりやすく記入し、全職員が情報を把握するよう努め、より良いケアに繋がられるよう取り組んでおります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況に応じて臨機応変に対応できるよう、心掛けております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員が来訪し、地域行事への参加を勧めてくださったり、イベント会場でのお世話をさせていただいたりしています。また、月に1～2回、傾聴ボランティアの方々と交流を楽しんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医、本人や家族の希望による受診先にて医療を受けられるよう支援しております。	かかりつけ医への継続通院の方が5名、協力医の回診を受けている方が4名で、通院には、家族対応の方が3名で、6名は職員が同道している。今後、家族の対応が困難になって来るとわれ、家族が病院で待ち、送迎だけを職員が対応することも考えている。受診時、病院メモ(ホームの様式)を医師に提供し、指示を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、朝と夕に看護師へ利用者の状態を報告し、相談したり指示を受けたりし、連携を図りながら対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族、医師、ケアワーカーとの話し合いにより、退院後の生活について検討しております。また、定期的に見舞いに行き、状態を把握するようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特養と併設している為、重度化した場合は移動も可能である事を家族へ説明しております。	法人で、看取りの指針を作成している。ホームでは、看取りの対応は予定していない。これまで、重度化し、医療が必要になった場合は、家族の希望や医師の指示で入院となっている。また、介護が必要になった場合は、家族と話し合い、介護施設に入所となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置等の講習は定期的受講しております。急変時の応急手当の方法について等、ホーム内での会議の際に、医療研修の内容に取り入れたりしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している特養と合同で、火災を想定した避難訓練(消防署員立ち合い)、非常召集訓練を実施しております。	避難訓練は、消防署が立ち会いで夜間想定訓練と、非常召集訓練の2回行っている。建物は、1階の特養ホーム2ユニット、2階のホームと、特養ホーム1ユニットで構成しており、合同で行っている。昨年、外部評価や運営推進会議で、近隣の方の協力体制整備について意見を頂いていたが、まだ実現に至っていないので、検討していきたい。	夜間想定避難訓練を行っていることから、次回は、実際に夜間の避難訓練を実施し、暗さと少ない職員での課題を探り、対応策の検討を希望したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉遣い、介助の方法については、不快な思いを与えないよう常に配慮しています。どのような対応が良いかという事は、日頃から職員間で話し合いながら対応しております。	利用者には、名前で声掛けしている。利用者は、職員のことは、「ちょっと」等と呼んでいる。4年目に初めて利用者から、名前で呼ばれた。夕方になると、不穏になる方には、「間も無くご飯だよ」と同じ対応することと、話し合いで決めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ利用者から希望を伝えてもらえるような働き掛けをしております。また、自分の思いをなかなか表出できない方については、本人の思いを察しながら、決定を促す提案をするように対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、利用者のペースに合わせた支援を行うよう心掛けております。起床、就寝時間、活動への参加も本人の様子を見ながら対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、外出時のおしゃれ等、本人の好みに合わせて支援しております。また、行きつけの理容店がある方については、同行支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備、行事のおやつ作り等、利用者と一緒にやる事もあります。ランチョンマット準備や、下膳等の片付けは利用者が自発的に毎日行っています。職員も利用者と同じ食事を摂り、楽しく会話をしながら過ごしております。	献立は、職員が作成している。利用者の誕生日には、本人の好きな物を取り入れている。利用者の苦手な物は代替品で提供している。刺身は、夏場以外は、月1～2回提供している。餅も出している。調理は、職員がしており、利用者は、野菜の皮むきや下膳等手伝えることを自発的に行っている。ドライブでの外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量をチェックし、職員間での情報交換をしながら、一人一人に合った支援をしております。食事、水分の内容も好みに合わせて提供できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、見守り、一部介助にて毎食後の口腔ケアを重視して実施しています。デンタルリンスを使用したり、歯ブラシのタイプを検討するなどし、個々の状態に合ったケアを行っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握、状況を把握し、常に職員間で声を掛け合い、トイレ誘導のタイミングを工夫しています。できるだけ失禁を防ぎ、不快感を軽減できるよう支援しております。	布パンツ使用の方3名、リハビリパンツにパット使用の方5名、おむつ使用の方1名で、基本的には、トイレでの排泄に努めている。入院し、退院時おむつしていたが、布パンツ使用になる等、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品、乳製品を毎日の食事に取り入れたり、水分を多く摂れる工夫を行っております。また、個々の状態に合わせ、牛乳を摂取する時間を変えたり、個人でヨーグルトを購入してもらい、便秘予防につながるよう働き掛けております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調、気分に応じて入浴できるよう心掛けています。入浴回数、時間帯も利用者の希望に合わせて行うようにしております。	利用者は、週3回は入浴している。また、本人の希望で、毎日入浴する方もいる。今は昼になったが、夜に入りたいと希望し、対応していた。着替えを自分で準備する方もいる。音楽をかけて、温泉気分になったり、入浴剤を使用したり、楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの居室、またはリビングのソファ等、思い思いの場所で休息をとっていただき、落ち着ける時間を確保できるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬局からの説明により、注意点は必ず確認し、確実に全職員に伝えるよう対応しております。また、服薬後の様子観察も十分行うよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事的な役割、行事の準備を一緒に行ったり、編み物、工作、読書、散歩等の活動ができるよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日、その時の利用者の気分によって、散歩やドライブに行ったり、利用者からの要望でイベント見学に出掛けたりする事もあります。出来るだけ、希望に沿えるよう、業務、職員体制を調整し対応しております。	散歩は、建物の周りや、敷地外に出かけている。出会った方が、声掛けしてくれる。冬期は、2階から1階に下りて、運動代わりにしている。また、ペランダで、外気浴・日光浴を勧めている。ペランダでは、プランターで野菜(ゴーヤ)等を栽培している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談のうえ、財布を所持している方もあります。持っているだけで良いという方と、実際に買い物で支払いを自分で行いたいという方とがあり、それぞれのケースに応じて対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があった場合は、すぐ対応するようしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節、行事に合った装飾を行ったり、花を飾ったり楽しんでます。また、快適に過ごせるよう、明るさ、温度、音等への配慮に努めております。	外来者は、玄関で、うがい・手洗いをしている。ホールには、大型テレビ、食卓、ソファが配置されている。壁に施設理念が掲示されている。利用者は、思い思いの場所で寛いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはテーブル席かソファの席で過ごすようになっており、それぞれ気分に応じて使い分けている様子です。また、ベランダに出て景色を眺めたり、楽しく会話をしながら日光浴ができるよう支援しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者が、家で使っていた椅子、ラジオ、テレビ等を持って来ていただき、過ごしやすい部屋作りを行っております。	木製のベッド、小箆筒、洗面ユニットが備えつけてある。寝具はレンタルで、毛布・タオルケットは、使い慣れたものを持ち込みしている。テレビ、椅子を置いたり、家族の写真や自分の作品を飾っている。掃除は、職員と一緒に実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を支援できるように、建物内部を工夫し、改善を図るよう取り組んでおります。		